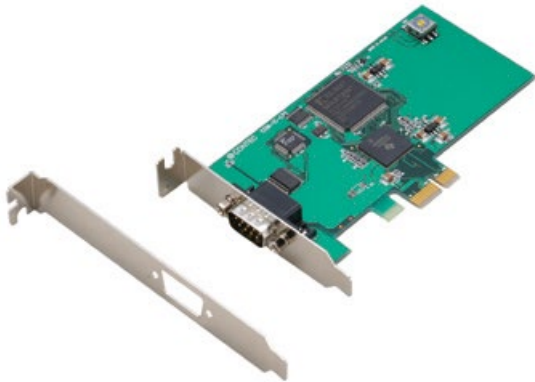


PCI Express 対応
RS-232C シリアル I/O ボード
Low Profile サイズ 1ch タイプ
COM-1C-LPE



※製品の仕様・色・デザインは、予告なしに変更することがあります。

特長

■RS-232Cシリアル通信、最高 921,600bpsに対応

本製品の COM ポートは、最高 921,600bps に対応しています。
COM-1C-LPE は、RS-232C 準拠の COM ポートを 1ch 搭載しています。

■Windows/Linuxの標準 COM ポートとして使用可能。

当社デバイスドライバ COM-DRV と組み合わせることで、パソコン本体の COM ポートと同様に使用することができます。Win32 API における DCB 構造体を用いた通信や Linux 標準のシステムコールに対応しています。また、ハードウェアの動作確認や機器との通信テストが行える診断プログラムも提供しています。

■最大 16 枚までのボードを増設可能

1 台のパソコンに同じ型式のボードを最大 16 枚まで実装できます。

■各チャンネルに送信 128byte 受信 128byte のバッファメモリを搭載

各チャンネルに送信専用 128byte、受信専用 128byte のバッファメモリを搭載しています。バッファメモリは FIFO 形式で、高速な通信やデータ送受信時の CPU 負荷軽減に役立ちます。

■パソコンと同じ使いやすい 9 ピン D-SUB コネクタを採用

RS-232C で最も汎用的な 9 ピン D-SUB コネクタを採用しており、市販の RS-232C 準拠のケーブルが使用できます。

■Low Profile サイズ/スタンダードサイズスロットに対応(ブラケット同梱)

Low Profile サイズスロット/スタンダードサイズスロットに対応した各ブラケットを同梱しています。スタンダードサイズスロットに実装する場合は、スタンダードサイズブラケットに交換します。

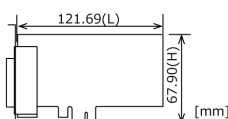
■RS-232C 制御線をソフトウェアで制御・監視が可能

RTS, CTS, DTR, DSR の制御線をソフトウェアで制御や監視が可能です。

同梱品

- ☐ ボード[COM-1C-LPE] …1
- ☐ スタンダードサイズブラケット…1
- ☐ 必ずお読みください…1

外形寸法



外形寸法の (L) は、基板の端からスロットカバーの外側の面までのサイズです。

本製品は、パソコンに RS-232C 準拠のシリアル通信機能を拡張する Low Profile サイズの PCI Express バス対応ボードです。

COM-1C-LPE は、RS-232C 準拠の COM ポートを 1ch 搭載しています。

各チャンネル、送受信別に 128byte の FIFO バッファを搭載、921,600bps までのボーレートに対応しています。

Windows/Linux に対応したドライバを用意しています。

※本内容については予告なく変更することがあります。

※最新の内容については、当社 Web サイトでご確認ください。

※データシートの情報は 2025 年 2 月現在のものです。

仕様

項目	仕様
チャンネル数	1ch
入出力仕様	RS-232C
伝送方式	非同期シリアル伝送
ボーレート	30 - 921,600bps ※1※3
データ長	5、6、7、8ビット 1、1.5、2ストップビット
パリティチェック	イーブン、オッド、ノーパリティ
搭載 LSI	162850 相当品 (FIFO バッファは、送信用 128byte、受信用 128byte)
信号延長可能距離	15m 以内
割り込み	1点使用 ※2
I/O アドレス	8ビット×32ポート占有
消費電流	3.3VDC 300mA(Max.)
バス仕様	PCI Express Base Specification 1.0a x1
外形寸法(mm)	121.69(L) × 67.90(H)
質量	60g

※1 高速でデータ伝送する場合は、ケーブルの材質や環境などによって正常な伝送ができない場合があります。

※2 割り込み信号は、1つの割り込み信号にまとめられて PCI Express バスに接続されます。

※3 基板番号によりボーレート下限値が変化します。『基板番号による相違点』を参照ください。

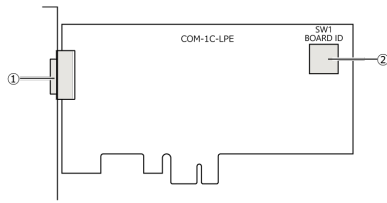
サポートソフトウェア

名称	内容	入手先
Windows 版 シリアル通信ドライバ COM-DRV(WDM)	Windows 上で、本製品をパソコン本体の COM ポートと同様に使用するためのソフトウェアです。本ソフトウェアは、OS 標準の Win32 API における DCB 構造体を用いた通信および NET における SerialPort クラス、Python における pySerial モジュールに対応しています。C#や Visual Basic .NET、Visual C++、Python などの各種サンプルプログラムや動作確認に便利な診断プログラムが付属しています。	当社 Web サイトよりダウンロード ※1
Linux 版 シリアル通信ドライバ COM-DRV(LINX)	Linux 上で、本製品をパソコン本体の COM ポートと同様に使用するためのソフトウェアです。本ソフトウェアは、Linux 標準の tty ドライバに対応しており、Python における pySerial モジュールに対応しています。gcc(C/C++)や Python の各種サンプルプログラムを付属しています。	当社 Web サイトよりダウンロード ※1

※1 以下の URL よりダウンロードしてご使用ください。

<https://www.contec.com/jp/download/>

各部の名称

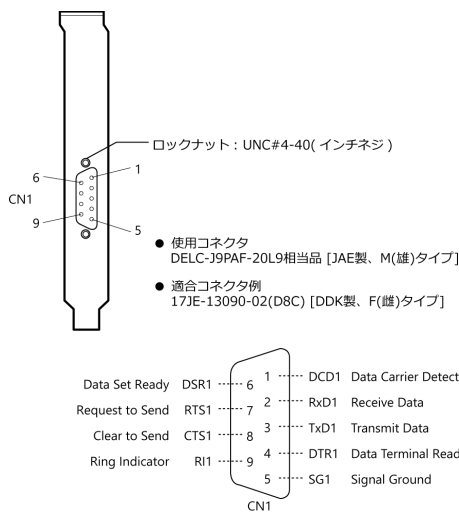


No.	名称
①	インターフェイスコネクタ(CN1)
②	ボードID設定用スイッチ(SW1)

外部機器との接続

◆ボード上のコネクタから直接接続する

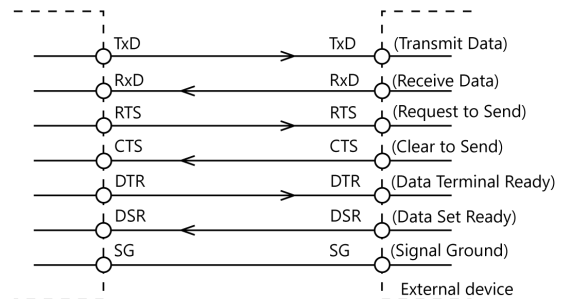
ボード上のコネクタから、直接外部機器に接続する場合は、適合コネクタ相当品を使用してケーブルを自作して接続してください。



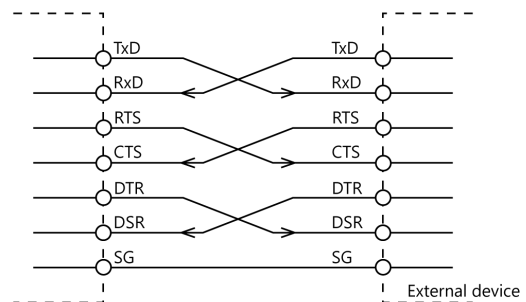
ケーブルの種類と接続例

RS-232C インターフェイスの接続は、モデムやコンピュータ(パソコン)などのように、接続する機器によって使用するケーブルが異なる場合があります。したがって、ケーブルは接続する外部機器の仕様を確認の上、その種別(仕様)によってストレートタイプ、あるいはクロス(リバーズ)タイプを用意してください。さらに、コネクタ内で信号線処理の必要がある場合には、仕様に合わせ適切に処理を行ってください。

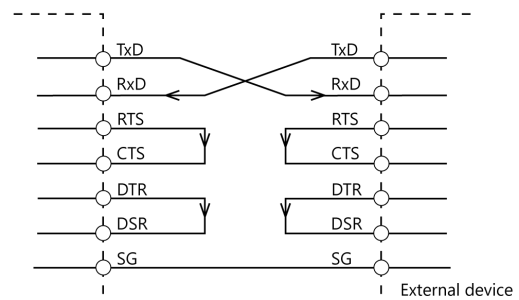
モデムとの接続例(ストレートケーブル)



パソコンとの接続例(クロスケーブル)



機器との接続例



基板番号による相違点

基板番号により仕様上の相違点があります。その相違点を以下に示します。

COM-1C-LPE

項目	基板番号	
	No.7331, No.7331A	No.7331B以降
ボーレート	2 - 921,600bps	30 - 921,600bps